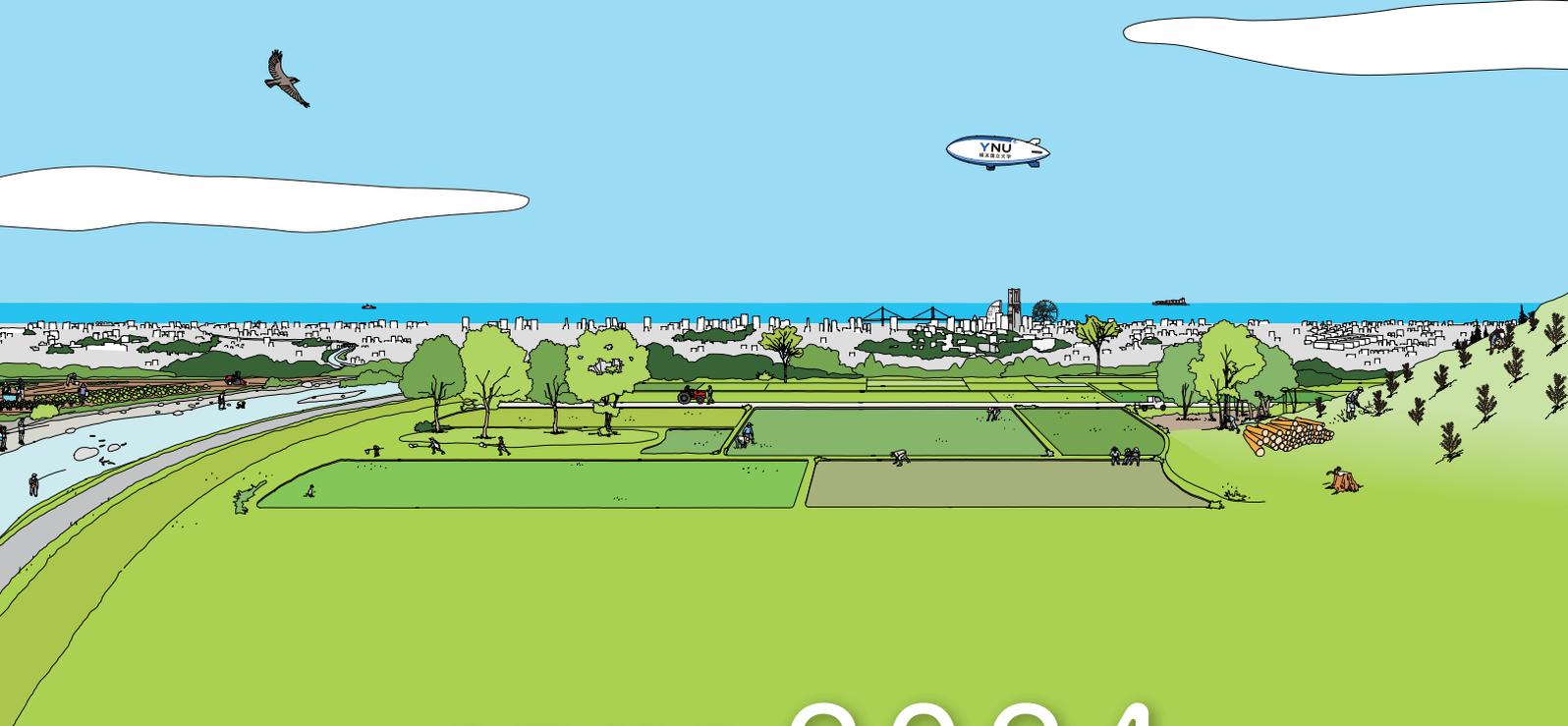


地域連携推進機構

Next Urban Lab



成果報告 2024

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University



地域
連携
推進
機構

Next Urban Lab

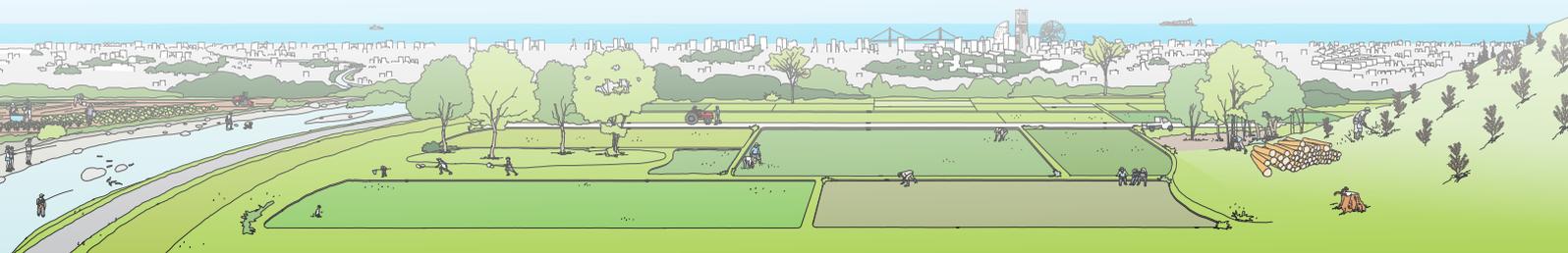
成果報告 2024

CONTENTS

ご挨拶	1
地域連携推進機構の目指す地域戦略	2
Next Urban Lab によせて	3
2024 年度の活動成果の概要	4

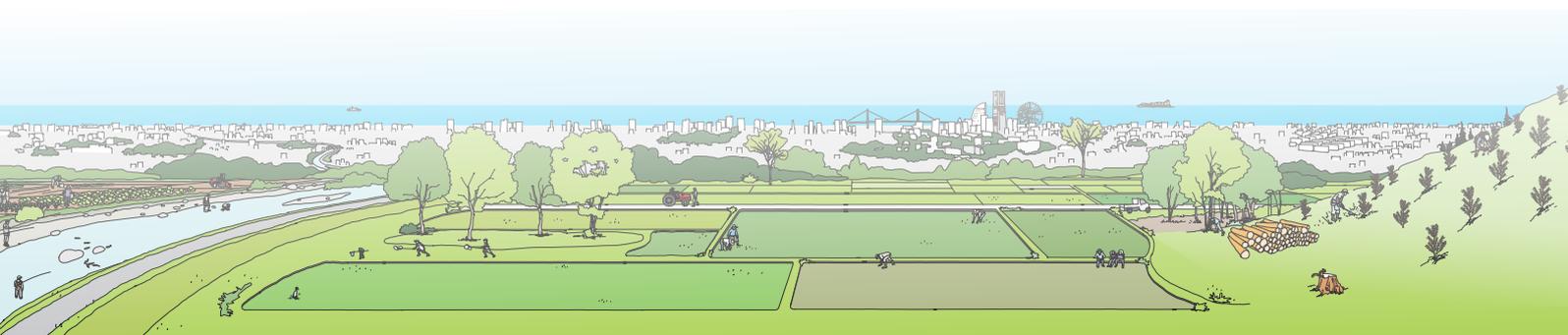
Next Urban Lab ユニット報告

1. エディブルガーデン・エディブルキャンパス	池島 祥文	6
2. 地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・ 横浜の市区町村経済圏分析	居城 琢	8
3. かながわ観光・環境まちづくり	氏川 恵次	10
4. 地域における協働を促進するサステナビリティ戦略 のためのマネジメントと会計	大森 明	12
5. 横浜産学官共創推進ユニット	真鍋 誠司	14
6. 神奈川県民のリーガルサービスの向上のための 地域連携活動	渡邊 拓	16
7. 未来の都市空間を想定した自然共生型の 都市ランドスケープデザイン	佐々木雄大	18
8. 転ばないまちづくりのための技術融合型リビングラボ	島 圭介	20





9. ヨコハマ型リノベーションの実践	江口 亨	22
10. 神奈川県・横浜市と考える 博学連携の多様な手法と試行	大野 敏	24
11. 里山ソーシャルデザインラボ	佐藤 峰	27
12. ポピュラー文化を活用したまち・ 地域の2.5次元化プロジェクト	須川亜紀子	29
13. 子どもの成育環境デザイン	田中 稲子	31
14. 新音響文化研究会	中川 克志	33
15. 横浜都心における 「イノベーションネイバーフッド（創造界限）」の形成	野原 卓	35
16. 常盤台まちづくり応援団	藤岡 泰寛	37
17. プラネタリー・ヘルスユニット	藤掛 洋子	39
18. 羽沢横浜国大駅周辺地域の交通計画	安部 遼祐	42
19. みなとみらい21地区における脱炭素まちづくり	吉田 聡	44
20. イノベーション創出を目指す 学生の地域連携活動のプラットフォーム	為近 恵美	46
21. かながわ県西 森里川海みらいプロジェクト	森田 洋	49



ご挨拶

田中 稲子

地域連携推進機構長

横浜国立大学は、地域との連携を推進するために、2017年4月に地域連携推進機構を設置しました。それまでも、それぞれの学部や大学院、地域実践教育研究センター等が様々な地域との連携事業を行っておりましたが、地域からみたときの窓口をより分かりやすくすること、また学内においても活動情報をより効果的に共有していくことなどの課題がありました。本機構には、これらの課題を解決し、「地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援する」という横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を様々な地域課題解決に活かしながら大学として積極的に地域連携を推進する役割があります。

本機構の設置後、教員が自ら地域と関わる研究活動の推進と、これらを可視化して広く地域に発信するためのしくみである「ネクスト・アーバン・ラボ」を発足させ、活動を行ってきました。「ネクスト」には、「次世代の」という意味が込められています。複数の学内教員と行政・企業・NPOなどが連携して「ユニット」を構成し、多様な課題解決に取り組んでいます。本報告書は、2024年度の「ユニット」の取り組みをまとめたものです。

2022年度から第4期中期目標・中期計画期間に入り、本学が有する多様な学術知・実践知を駆使して、多角的に社会・地域課題の解決に取り組む体制、「社会・地域課題を発見・解決するプラットフォーム (Y-Plat)」を構築する計画になっています。このプラットフォームでは、多様なステークホルダー（自治体、産業界、学校、市民等）と連携して、様々な社会・地域課題を発見し、本学の教員による分野横断型のチームが中心となり、課題解決策を検討することが構想されています。これらの活動には、「ネクスト・アーバン・ラボ」を発展させる形で生み出されるものもあります。より適切な研究者チームによる「ネクストコラボレーション拠点 (NCC: Next Collaboration Core)」を形成し、社会・地域課題の解決に貢献すべく取り組みを始めております。

このように、第4期の計画では、「ネクスト・アーバン・ラボ」の取り組みを一層発展させています。ここに今年度の成果を共有し、多様な視点からご意見を賜ることで、社会・地域課題の解決により一層励む所存です。引き続き皆様のお力添えをお願い申し上げます。

地域連携推進機構の目指す地域戦略

地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017年4月に設置されました。地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

1 地域課題に実践的に取り組み、教育・研究成果を地域社会に還元します

地域社会が抱える課題を解決するため、本学の教育力及び研究力を総合的に発揮して実践的に取り組み、その成果を地域に還元します。

2 地域振興の核として諸機関・諸主体と連携した拠点を形成します

課題先進地域横浜・神奈川をフィールドに、自治体等の公的機関や民間企業、市民・NPO等との連携・協力によるオープンイノベーションで地域課題解決能力を高め、地域再生に向けた拠点を形成します。

3 地域に向けた人材育成及び人材還流を推進します

生涯学習及び公開講座などを通して、地域の教育、文化の向上・発展や多様な分野における人材育成及び人材還流に寄与します。

4 地域の産学官連携・産業振興に貢献します

共同研究・受託研究等による産業界や自治体との持続的な連携を重視するとともに、大学の有する知的・人的資源等を活用し、地域産業の振興及び地域社会の発展に寄与します。

5 地域課題への取り組みを通じて国際社会との連携・協力を進め 成果をグローバルに発信します

国際機関、海外の研究機関や大学との共同研究やシンポジウム、多文化共生をめぐる地域の課題解決に向けた連携活動等により、グローバル時代の地域課題解決に取り組み、その成果を発信します。

Next Urban Lab によせて

ネクスト・アーバン・ラボは「YNU の強みを出すために、プロジェクト型で高度な教育研究と実践活動 を行い、その成果を発信するための仕組み。新しい (next) 都市地域 (urban) のあり方を実践的にモデル提示する」との考えにもとづき 2018 年度に立ち上げられたもので、初年度に 18 の「ユニット」が活動を開始した。「ユニット」の申請・設立の際には目標を定め、毎年入れ替えを行って（継続も可能）、常にフレッシュさを保ってきた。

機構の HP には「ネクスト・アーバン・ラボは、ヨコハマ、かながわ地域を主なフィールドとして教育・研究・実践活動を行い、その成果を発信する仕組みです。地域のひとびとや、行政・企業・NPO などと連携して、ヨコハマ、かながわ地域ならではの魅力を活かした地域のナレッジベースの構築をめざしています」と紹介されている。

その後、ネクスト・アーバン・ラボの活動評価指標を設定して全体としての活動量や成果を把握することができるようになり、また、ネクストコラボレーション拠点への進化という新たな道筋も加えて、活動の活性化をはかってきた。

こうした取り組みが YNU 独自の「仕組み」としてさらに発展し、社会に貢献していくことを願っている。

文責・高見澤 実

(地域連携推進機構・学長特任補佐、名誉教授)

報告書の見方

- ① (地域で使える) マニュアル、評価手法、技術等
- ② 地元自治体等への提言 (既に行ったもの)
- ③ 研究成果の地域への情報発信
- ④ 地域の中に活動拠点を置き地域活動を行った (〇〇ラボ、等)
- ⑤ 地域実践活動 (④のような拠点が無い場合)
- ⑥ 地域ネットワークの構築 (〇〇協議会、などの組織への参画やマネジメント等)
- ⑦ その他 (具体的に)

2024年度の活動成果の概要

各ユニットの活動成果を、分類別・エリア別に下表にまとめました。

		Next Urban Lab (令和6年度)																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
		エディブル	市区町村経済圏分析	かながわ観光・環境	サステナ会計	産学官共創	県民リーガル	都市ランドスケープ	転ばないまち	ヨコハマ型リノベ	博学連携の多様な手法と試行	里山ソーシャルデザインラボ	2・5次元	子どもの成育環境	新音響文化研究会	創造業態の形成	常盤台まちづくり応援団	プラネタリー・ヘルス	羽沢国大駅周辺交通計画	みなとみらい脱炭素	イノベ学生地域連携	県西森里川海みらい
エリア	羽沢横浜国大駅周辺	○					○	○			○		○	○			○	○	○			
	横浜都心		○	○		○	○	○	○	○	○	○		○		○					○	○
	新湘南			○	○		○	○	○													○
	県西				○			○	○	○		○									○	○
	その他		○				○	○	○	○	○	○		○	○			○			○	○
成果	①マニュアル、評価手法、技術等	○	○	○	○			○	○				○	○							○	
	②地元自治体等への提言		○	○					○			○	○				○	○	○			
	③研究成果の地域への情報発信		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		
	④地域の中に活動拠点を置き地域活動を行った		○	○		○			○	○							○	○				
	⑤地域実践活動	○	○	○									○			○						○
	⑥地域ネットワークの構築		○	○						○		○				○	○	○	○			○
	⑦その他										○	○		○	○			○	○	○		

成果の分類について

『Next Urban Lab 成果報告 2017-2019』（以下、『17-19 報告』）より、成果を7つの分野に分け、整理しています。

- ① (地域で使える) マニュアル、評価手法技術等
- ② 地元自治体等への提言 (既に行ったもの)
- ③ 研究成果の地域への情報発信
- ④ 地域の中に活動拠点を置き地域活動を行った (○○ラボ、等)
- ⑤ 地域実践活動 (④のような拠点が無い場合)
- ⑥ 地域ネットワークの構築 (○○協議会、などの組織への参画やマネジメント等)
- ⑦ その他 (具体的に)

活動エリアについて

2022年度から、第4期の新たな6年間の中期目標・中期計画期間に入りました。「Next Urban Lab」を「ネクストコラボレーション拠点 (NCC)」へと進化させるべく、「羽沢横浜国大駅周辺」「横浜都心」「新湘南」「県西」の4つの地域を重点エリアとしています。

令和6年度 地域連携推進機構「Next Urban Lab」ユニット成果概要

1	エディブルガーデン・エディブルキャンパス	池島 祥文
2	地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・横浜の市区町村経済圏分析	居城 琢
3	かながわ観光・環境まちづくり	氏川 恵次
4	地域における協働を促進するサステナビリティ戦略のためのマネジメントと会計	大森 明
5	横浜産学官共創推進ユニット	真鍋 誠司
6	神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動	渡邊 拓
7	未来の都市空間を想定した自然共生型の都市ランドスケープデザイン	佐々木雄大
8	転ばないまちづくりのための技術融合型リビングラボ	島 圭介
9	ヨコハマ型リノベーションの実践	江口 亨
10	神奈川県横浜市と考える博学連携の多様な手法と試行	大野 敏
11	里山ソーシャルデザインラボ	佐藤 峰
12	ポピュラー文化を活用したまち地域の2.5次元化プロジェクト	須川亜紀子
13	子どもの成育環境デザイン	田中 稲子
14	新音響文化研究会	中川 克志
15	横浜都心における「イノベーションネイバーフッド（創造界限）」の形成	野原 卓
16	常盤台まちづくり応援団	藤岡 泰寛
17	プラネタリー・ヘルスユニット	藤掛 洋子
18	羽沢横浜国大駅周辺地域の交通計画	安部 遼祐
19	みなとみらい21地区における脱炭素まちづくり	吉田 聡
20	イノベーション創出を目指す学生の地域連携活動のプラットフォーム	為近 恵美
21	かながわ県西 森里川海みらいプロジェクト	森田 洋

UNIT
1

エディブルガーデン・エディブルキャンパス

事業の総括責任者 ● 池島 祥文 国際社会科学研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 鏡味麻衣子 環境情報研究院
- 屋祢下 亮 大成建設技術センター
- 渡邊 敬太 大成建設技術センター
- 有吉 亮 Localist
- 西岡 隆暢 Localist

1 令和6年度の活動内容

エディブル概念を活用した地域と大学との架け橋づくりの一環として、羽沢横浜国大駅から本学への通学路を植栽で示すエディブルウェイのアイデアが生まれ、植木ポットを設置する企画を検討しはじめた。R6年度においては、ポット設置にさきだって、より直接的に、ルートを示す対策に取り組んだ。



大学北門から学外へと向かわず西門方向へ抜ける道路があるものの、利用者がほとんどいないこともあり、そのルートへ誘導するフェンスサインとカラーコーンを設置した。

2 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 鈴木勉（本学元地域連携コーディネータ）
- mikke remikke

UNIT
2

地域自治体と連携した統計データ構築 と神奈川・横浜の市区町村経済圏分析

事業の総括責任者

● 居城 琢 国際社会科学研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

● シュレスト・ナゲンドラ 国際社会科学研究院

● 張 鶴鳴 連携研究員

1 | 令和6年度の活動内容

本プロジェクトの目的は、神奈川県を対象とし、各地域の特徴を浮き彫りにするデータを作成と地域経済分析を行うことにある。本プロジェクトで、分析を進めるツールとして地域産業連関表を用いる。1年間にわたって、内外の研究者、学生を招き横浜産業連関研究会を下記のように開催した。

<https://www.economics.ynu.ac.jp/hus/econ/31700/>。また、連携先である神奈川県統計センターに学部学生が訪問し、研究成果を報告した。<https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/32913/> その成果は左記にて広報している。

また島根県立大学の学生と共同研究会を学内で開催した。この様子は下記HPにて公開した。<https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/32871/> また、横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課と連携し、山下ふ頭再開発に係る経済効果を研究した。その立ち上げは <https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/32177/> にて公表しておりその成果は、2月20日の横浜市での最終報告会で発表する予定である。この研究成果は、横浜市港湾局のHPにて右記のように公表している。<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkihon/keikaku/yamashita/joi/kigyodaigaku.html#57855>

また、地域の文化産業の研究としては「東京都のアニメ産業に関する産業連関分析 ―東京都アニメ産業部門の分割による三地域産業連関表の作成および分析―」 龔与泽 居城, 琢『横浜国際社会科学研究所』29(2)85-98 にて発表している。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
その他	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 神奈川県統計センター 横浜市港湾局

UNIT
3

かながわ観光・環境まちづくり

事業の総括責任者 ● 氏川 恵次 国際社会科学研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 大村 恵利 教育学部（専門教諭）
- 張 馨元 国際社会科学研究院
- 加藤 郁夫 株式会社国際開発センター

1 | 令和6年度の活動内容

令和6年度は、県西地域・各自治体等と連携しつつ、自然資源を活用したツーリズムを通じてのまちづくりおよび地域連携の推進を試みた。とくに森林浴の学術的知見を活用した社会実装にも取り組んだ。また横浜市での行政・企業・市民等と連携した環境課題解決事業も継続的に推進した。さらに新湘南エリアにかかる鎌倉市において、脱炭素かまくら市民会議を実施して、当地での環境・観光に配慮したまちづくりを検証した。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐
新湘南エリア	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

①横浜都心エリアでは脱炭素技術等、県西エリアでは森林医学の専門的知見等の導入、②横浜都心エリア、新湘南エリア、県西エリアにおいて、各々横浜市、鎌倉市、県西市町へ政策提言の試み、③横浜都心エリア、県西エリアでの各研究成果の発信、④横浜都心エリアでは横浜市地球温暖化対策推進協議会・関内まちづくり振興会、県西エリアではあしがら地域振興協会と連携した拠点形成、⑤新湘南エリアでは鎌倉市等と連携した地域実践活動、⑥横浜都心エリア、新湘南エリア、県西エリアで、各々、横浜市地球温暖化対策推進協議会・関内まちづくり振興会、脱炭素かまくら市民会議実行委員会、あしがら地域振興協会に参画、を行った。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 神奈川県庁
- 県西地域県政総合センター
- 横浜市役所
- 横浜市地球温暖化対策推進協議会
- 関内まちづくり振興会
- あしがら地域振興協会

UNIT
4

地域における協働を促進するサステナビリティ戦略のためのマネジメントと会計

事業の総括責任者 ● 大森 明 国際社会科学研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 氏川 恵次 国際社会科学研究院
- 孫 穎 国際社会科学研究院
- 石田 満恵 国際社会科学研究院
- 曹 勁 国際社会科学研究院
- 加藤 郁夫 国際開発センター
- 工藤 悟志 埼玉学園大学

1 | 令和6年度の活動内容

一昨年度は小田原市を中心として、SDGsの達成に向けてどのような協働が行われ、そして、それを自治体がマネジメントしているかということに関する実態調査を行った。その際に企業との連携の重要性が認識されたため、昨年度は自治体に対して地域通貨サービスを提供している(株)カヤックに焦点を当て、民間企業であることから利益の追求を図りつつ、地域におけるSDGsの達成や地域課題の解決を支援するサービスを展開する実態を調査した。その結果、自治体と企業との協働の重要性が再認識されるとともに、いずれの組織においてもこうした協働の結果を評価するマネジメントの仕組みが確立していないことが課題として認識された。そこで当ユニットでは成功する協働の要素を明らかにするとともに、その成功に向けて情報をマネジメントするサステナビリティ会計のモデルの構築を目指している。

今年度は、(株)カヤックが本社を有し、地域通貨サービスを展開している鎌倉市において、SDGsの達成や地域課題の解決に向けた様々なセクター間の協働について、自治体における評価の状況を把握し、当ユニットが提示する地域課題解決に向けた施策の評価モデルの適用可能性を検討した。具体的には鎌倉市で協働による施策を企画・展開している共生共創部に対するヒアリング調査を実施し、評価モデルの妥当性を検討した。企業と自治体というステークホルダーに加えて、住民というステークホルダーに対する検討の必要性を認識し、当該モデルが住民というステークホルダーの協働の評価を組み入れる方策を検討している。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 | ホームページアドレス等

特になし

4 | 主要連携先

- 株カヤック
- 鎌倉市
- 小田原市

UNIT
5

横浜産学官共創推進ユニット

事業の総括責任者 ● 真鍋 誠司 大学院国際社会科学研究院

事業の分担者・
連携研究員

- 丸尾 昭二 大学院工学研究院
- 大野 秀敏 総合学術高等研究院
- 前畑 英雄 東京農工大学 先端産学連携研究推進センター

1 | 令和6年度の活動内容

令和6年度は、星川～天王町エリアの相鉄高架下施設「星天 qlay」に設置されたサテライトオフィスを拠点に、地域コミュニティに参加している。具体的には、星天 qlay にある PILE（コラボラティブ・スタジオ）やヤドカリ（シェアハウス）を中心とするコミュニティである

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

③台風科学技術研究センターの取り組みについて、動画を作成し、サテライトオフィスのデジタルサイネージで情報を発信した。

④星天 qlay に「共創革新ダイナミクス研究ユニット」サテライトオフィスを設置し、「Next Urban Lab」の活動も併せて行っている。

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000122.html>

4 | 主要連携先

- 横浜未来機構
- 横浜市経済局
- 横浜市都市整備局
- (一社) みなとみらい 21
- 相鉄アーバンクリエイツ
- 相鉄ビルマネジメント
- ルートデザイン合同会社 (PILE)
- YADOKARI 株式会社



神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動

事業の総括責任者

- 渡邊 拓 国際社会科学研究院

事業の分担者・ 連携研究員・ 学外協力者

- 石崎由希子 国際社会科学研究院
- 椛島 洋美 国際社会科学研究院
- 笹岡 愛美 国際社会科学研究院
- 小池 治 本学名誉教授・連携研究員
- 余 乾生 長崎国際大学助教・連携研究員
- 櫻井 幸男 連携研究員

1 | 令和6年度の活動内容

2024年10月16日と2024年11月6日の2回にわたり、本学国際社会科学研究院の柳迫周平講師により、「近時の親子法改正のポイントと基底・展望」というテーマで、本学と神奈川県弁護士会との共催研修会をオンラインで実施し、好評であった。

2024年5月11日（土）（9：30～12：00）に、本ユニットと横浜 ELSI 研究会との共催の令和6年度第1回オンラインセミナーとして、「先端医科学研究の社会実装と ELSI：ゲノム医療推進法と全ゲノム解析等実行計画を中心に」というテーマで、早稲田大学社会科学部准教授の横野恵氏にご講演をいただいた。

2024年7月27日（土）（9：30～12：10）に、本ユニットと横浜 ELSI 研究会との共催の第2回オンラインセミナーとして、「東アジアの終末期医療に関する法的・倫理的研究の成果と課題」というテーマで、京都大学大学院文学研究科教授の児玉聡氏にご講演いただいた。

2024年12月15日（日）（14：30～17：00）に、本ユニットと横浜 ELSI 研究会との共催の第3回オンラインセミナーとして、「感染症リスクに対する法規制の基本方針」というテーマで、東京大学大学院法学政治学研究科教授・内科医の米村滋人氏にご講演をいただいた。

いずれのセミナーも参加者を交えて活発な議論があり大変盛況であった。

また、本学の YNU BASE HAZAWA 開業イベントとして、国際経済法学専攻の3名の院生に自らの研究についてポスターを作成してもらい、展示を行った。

2 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 ホームページアドレス等

- 神奈川県弁護士会との共催研修会の記事

https://www.kanaben.or.jp/profile/info/shinbun_ippan_20241220.pdf

- 地域連携推進機構 HP（本ユニットページ）

https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000299.html_

4 主要連携先

UNIT
7

未来の都市空間を想定した自然共生型の都市ランドスケープデザイン

事業の総括責任者 ● 佐々木雄大 環境情報研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 小池 文人 環境情報研究院
- 鏡味麻衣子 環境情報研究院
- 稲垣 景子 都市イノベーション研究院
- 矢吹 剣一 都市イノベーション研究院
- 松行美帆子 都市イノベーション研究院
- 奥山 尚子 環境情報研究院
- 飯田 晶子 東大・院・工学系研究科
- 田中 貴宏 広大・院・先進理工系科学研究科

1 | 令和6年度の活動内容

近い将来、東京ー横浜のような大都市でも、人口の減少が顕著になる「都市の縮退 (urban shrinkage)」が進むことが予想される。都市の縮退に伴って、既存市街地内の未利用地の増加、都市における人と自然の関係性の変化、都市空間の再編に伴う防災のあり方の変容などの問題が顕著になることが想定され、都市ランドスケープデザインに関わる発想の転換や新たなイノベーションが求められている。本ユニットでは、横浜市全域および東京ー横浜大都市域を対象に、未来の都市空間のあり方について、教育研究活動を行っている。令和6年度は、夏季にユニットメンバー全員で集中的な勉強会を行い、共同で研究費を新たに申請した。また、関連研究を3編発表した。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

本年度は、よこはま動物園・横浜市緑の協会との連携を強めた。よこはま動物園の自然体験林(かつての里山、薪炭林)において、林床の下草管理がもたらす生物相および生態系サービスの影響

を解明する野外操作実験を 2022 年より展開している。かつての薪炭林では、農業利用に伴う森林管理の一環として、林床植生の下草刈りや落ち葉掻きが行われており、豊かな生物相と生態系サービスが支えられてきた。本操作実験では、里山林床の生物多様性や生態系の機能・サービスを最大化するための下草刈り方法（刈り取り頻度、刈り取り時期、リター除去の有無）を探索しようとしている。本年度は実験開始から 2 年目となり、実験操作の影響を検証するための大規模なデータ収集を行った。データは現在、投稿論文としてまとめ、審査中である。横浜市郊外部の二次的自然の管理方法の提案と、よこはま動物園の体験林を活用した環境教育効果の向上を視野に、研究を継続していく予定である。

当ユニットに関わる研究・教育活動の一環として、当ユニットの教員の指導学生あるいはポストドクが主著とする国際学術論文が 3 報公表（下記）された。

<公表論文>

1. [Yadav, H., Iwachido, Y. & Sasaki, T. \(2024\) Effect of urbanisation on feces deposited across natural urban forest fragments. *Urban Ecosystems*, 27, 2277-2282.](#)
2. [Iwachido, Y., Uchida, K. & Sasaki, T. \(2024\) Urbanization alters the relative importance of local and landscape factors affecting plant communities in the Tokyo megacity. *Ecology and Evolution*, 14, e70006.](#)
3. [Maehara, K., Iwachido, Y., Katsuhara, H., Tomitaka, M., Seto, K., Ushio, M., Kagami, M., & Sasaki, T. \(2024\) Plant and soil microbial community assembly processes across urban vacant lots. *Journal of Vegetation Science*, 35, e13262.](#)

3 | ホームページアドレス等

<http://www.sasa-lab.ynu.ac.jp/pukiwiki-151/?Next+Urban+Lab>

4 | 主要連携先

- 横浜市財政局・環境創造局・よこはま動物園

UNIT
8

転ばないまちづくりのための 技術融合型リビングラボ

事業の総括責任者

● 島 圭介 環境情報研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 大沼 雅也 国際社会科学研究院
- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 田中 稲子 都市イノベーション研究院
- 王 天一 総合学術高等研究院
- 下野 誠通 工学研究院
- 福田 淳二 工学研究院
- 泉 真由子 教育学研究科
- 学外連携先 ユニコムプラザさがみはら
- 学外連携先 神奈川県ヘルスケアニューフロンティア
- 学外連携先 横浜銀行

1 令和6年度の活動内容

近年、ロコモティブシンドロームやフレイルなどの高齢者の身体的機能低下と転倒事故が社会的課題となっている。本ラボでは、高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指し、リビングラボにおける様々な対話的試行を通じて、大学および地域の多様なステークホルダーとの相互理解を促進しながら、技術開発の方向性や社会への導入方法を模索するものである。これにより、技術分野・社会分野が融合した未来志向の「転ばないまちづくり」を実現することを目指している。具体的に取り扱う技術としては、ウェアラブル機器を活用したヒト機能評価技術（転倒・骨折リスク測定法など）、ヒト機能拡張・支援技術（歩行支援装置や環境制御装置など）、転倒防止に結びつく住環境改善技術の三つのカテゴリーに分類される。これらの技術を活用し、地域住民に対する情報発信や意識改革を推進し、転倒予防の社会実装を目指した活動を継続的に実施した。

2 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

転倒防止技術の社会実装を検討するため、本学や近隣地域のリビングラボを活用した。特にリビングラボにおいて、多様なステークホルダーとプロジェクトメンバーが対話を重ねることで、超高齢社会に備えた住民の自覚向上を図ることが期待される。また、丘陵地帯が多く、坂道や階段が点在し、転倒リスクが高い横浜の住宅地において、安全なまちづくりに貢献することを目的としている。活動地域については、令和5年度までに構築した連携先（横浜市常盤台・左近山、鎌倉市今泉台、相模原市など）に加え、JST 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）の「“健歩快働”をまちごと科学するイノベティブ新湘南共創拠点」の活動とも連携し、第4期中期目標・中期計画の重点地域（湘南地域）での活動を中心として、リビングラボの開催や地域住民への最先端技術の情報発信を推進した。併せて、今後の新湘南キャンパスでの活動を見据えながら、「転ばないまちづくり」への地域住民の意識改革と課題抽出を実施した。

本年度の主な活動として、高齢者の転倒防止に向けた立位年齢計測会や実証実験、講演会の実施を中心に、多様な地域・機関と連携しながら取り組みを進めた。市沢地区主催のイベントにおいて立位年齢計測会を実施し、転倒予防に関する啓もう活動を実施した。また新湘南キャンパスにおいて「てくてくてくワークショップ」が開催され、計4回の立位年齢計測会を実施して地域住民との交流や行動変容のための取り組みを精力的に行った。また、ユニコムプラザさがみはらでは、オーサースカフェにおける転倒予防にかかわる講演の実施、左近山ケアプラザや湘南アイパークウェルビーイングフェスタ、YOXO-FES2025においても同様の計測会や体験イベントを実施し、地域住民の健康維持・転倒予防に向けた情報発信、ならびにさらなる連携活動に向けた取り組みを推進している。今後も2月22日に今年度最終となる新湘南キャンパスの「てくてくてく」への参加、3月2日には南万騎が原で行われる「みなまきひな祭り」への出展などを予定している。県外の活動としては、広島県尾道市や福山市において高齢者を対象とした実証実験を推進し、継続的に体操を取り組むことで高齢者の転倒リスクを下げられる可能性を示唆した。これらの活動を通じて、高齢者の転倒予防に向けた技術の社会実装を推進するとともに、地域住民との対話を深め、より実践的な取り組みへと発展させる基盤着実に広めてきている。

3 | ホームページアドレス等

BSD 拠点 : <https://bsd.ynu.ac.jp/>

4 | 主要連携先

- ユニコムプラザさがみはら
- 常盤台地域ケアプラザ
- 左近山地域ケアプラザ
- 横浜銀行

UNIT
9

ヨコハマ型リノベーションの実践

事業の総括責任者 ● 江口 亨 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者 ● 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
● 加藤 功甫 Connection of the Children

1 | 令和6年度の活動内容

活動の目的は、本学周辺地域にある団体や不動産オーナーと連携して既存の建物を活用し、その地域の価値を上げることである。2017年に開始した地域課題実習で対象としていた「casaco」でのプロジェクトをもとに、2018年度からはNULとしての活動を開始した。令和6年度は、これまで同様に学生が主体として地域住民等との定期的なイベントを実施しつつ、要望を受けて、建物の入口にDIYでスロープを取り付けて車椅子利用者のアクセス向上を図った。このように、試行錯誤しながら地域に根ざした活動を行った。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 【③】 学生の活動を紹介する機会として、学外協力者が発行している「野毛山新聞」というエリアマガジンに学生が毎月連載を行い、NULの活動を地域内の約400世帯に向けた発信を続けている。
- 【④】 拠点であるcasacoでの学生活動に対する住民の認識度が向上している。学生が毎年企画・運営している「キャンドルナイト」という定期イベントだけでなく、今年度は地域の子供たちを対象とした「宿題お助け隊」というイベントで夏休みの宿題を手助けする活動をし、交流を図った。

【⑦】 casaco は賃貸住宅であり、主に海外からの留学生を受け入れている。その賃貸住宅のゴミ捨てや住民とのコミュニケーションなどのマネジメントの一部を学生が担っており、建築の維持管理と国際交流の経験を積んでいる。casaco は古い木造の賃貸住宅であり、留学生を始めとした住民や運営組織が建物に手を入れ続けており、空間デザインのノウハウを蓄積している。その環境をお借りして、学生が座学で学んだことなどをまちづくりの実践の場で活かし、試行錯誤をする機会を得ている。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

なし

UNIT
10

神奈川県・横浜市と考える 博学連携の多様な手法と試行

事業の総括責任者

● 大野 敏 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 守田 正志 都市イノベーション研究院
- 菅野 裕子 都市イノベーション研究院
- 寺崎美智子 「花三郎の家」所有者
- 丹治 雄一 神奈川県立歴史博物館 学芸部長
- 阿諏訪青美 横浜市歴史博物館 主任学芸員

1 | 令和6年度の活動内容

令和6年度は神奈川県立歴史博物館、保土ヶ谷区「花三郎の家」横浜市立博物館、と連携した地域貢献活動を展開した。

まず、神奈川県立歴史博物館との連携は、博物館本館が重要文化財・旧横浜正金銀行本店本館であるため、10年ほど前から建築見学でお世話になっており、それを契機に2019年度に公財・松井角平記念財団の研究助成金を得て、本館の平面図作成と関東大震災以後の改修履歴調査、歴史的銀行建築の類例調査をおこなった。この際の図面作成は大学院の建築理論スタジオとしても実施し、その後も本館建築の特徴部実測調査や、文化財建造物の博物館利用の在り方に関して、スタジオ課題で取り組み、博学連携を模索してきた。

そして令和6(2024)年度は本店本館建築120年にあたり、県立歴史博物館と都市イノベーション研究院が連携して、本店本館の特徴を一般市民に公開する展示を計画し、11月9日～12月22日まで神奈川県立博物館1階展示室において「コレクション展 本店本館創建120周年記念横浜正金銀行」を共催し、展示の3章を分担した。また、事業担当教員3名が、コレクション展会期中に3回開催された「県博セミナー 横浜正金銀行本店本館の現在と未来」において、それぞれ講演を行った。なお、講演会受講者とコレクション展示参加者に対して、それぞれアンケート調査を行った。

次に保土ヶ谷区釜台町所在の茅葺き古民家「花三郎の家」との連携は、20年来継続してきた古民家の維持活動と文化的価値の顕彰活動をもとに、今後の維持継承策検討の契機として、地域課題演習「花三郎の家プロジェクト」を立ち上げた。そして毎月1回現地にて屋敷の維持と公開活用方法に関する意見交換を行った。

また、「花三郎の家」に関する従来の活動成果をはじめ、横浜国大が羽沢横浜国大駅周辺（大学周辺まで含む）で取り組んできた地域連携活動を紹介するため、1/500の大型都市模型と活動成果パネルの作成を、令和3年度以来都市科学部と都市イノベーション学府の支援を得て制作してきた。その成果として羽沢横浜国大駅となりのリビオタワー-HAZZAR内のHAZAWA BASEにて10月9日～11月5日まで展示を行った。

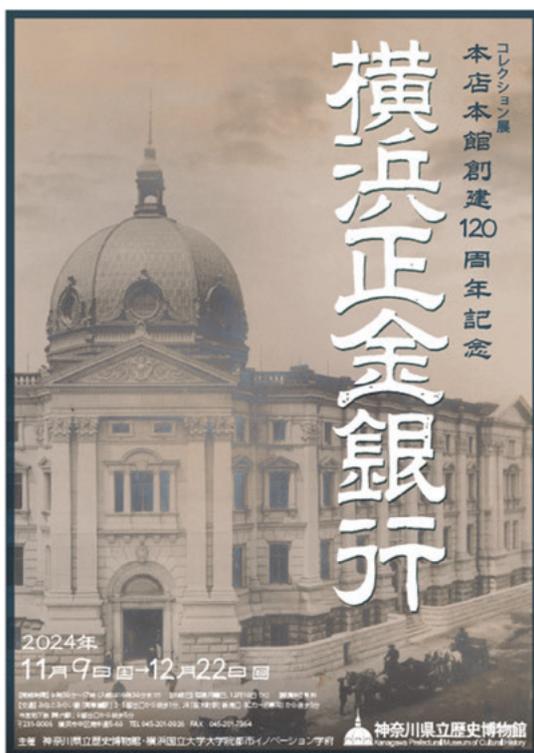
最後に、横浜市歴史博物館との連携については、令和6(2024)年度は都筑区区政30周年の記念として、重要文化財関家住宅の公開活動への連携を試行した。この事業は、11月23日に開催した関家住宅特別公開において、博物館職員と共に学生が建築解説を担当したものである。説明に際して事前に現地の見学・確認を行い、その結果をもとに資料整理して主屋1/20軸組模型と解説パネルを学生が作成した。公開日にはそれらの資料を住宅内に展示しながら、学生が解説を行った。また、関家住宅主屋軸組模型は、11月5日～12月17日まで(11月23日は除く)横浜市歴史博物館においても展示するとともに、11月30日は展示模型解説も行った。なお、横浜市歴史博物館における関家軸組模型の展示スペースには、先述の羽沢横浜国大駅周辺の大規模都市模型と模型範囲内における活動内容を紹介したパネルも展示した。また、博物館担当者にアンケートへの回答をいただいた。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

< 関連資料 >

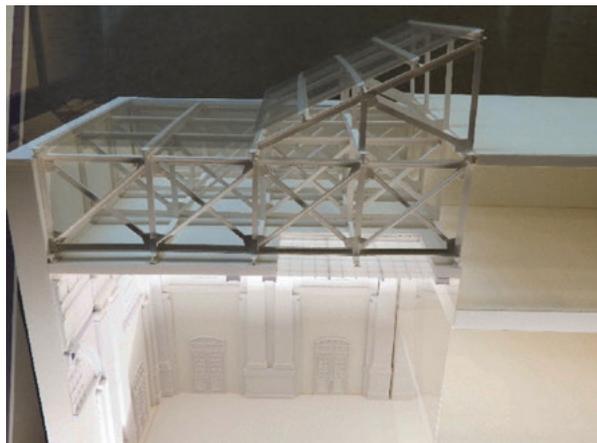
神奈川県立博物館コレクション展チラシ



学生作成のコレクション展用の本店本館パンフレット



神奈川県立歴史博物館「コレクション展 本店本館創建 120 周年記念 横浜正金銀行」 本学担当展示の一部
(2024 11 月 9 日撮影 大野敏)



関家住宅特別公開 模型を用いた学生解説の様子
(2024 年 11 月 23 日 撮影 大野敏)



横浜市歴史博物館での関家解説と大型都市模型展示
(2024 年 11 月 30 日 撮影 大野敏)

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 神奈川県立歴史博物館
- 横浜市歴史博物館

UNIT
11

里山ソーシャルデザインラボ

事業の総括責任者 ● 佐藤 峰 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力

- 氏川 恵次 国際社会科学研究院
- 小林 誉明 国際社会科学研究院
- 志村 真紀 都市イノベーション研究院
- 原口 健一 教育学部
- 倉田 薫子 教育学部
- 小池 治 横浜国立大学名誉教授
- 松村 正治 (NPO) よこはま里山研究所理事長
- 吉武美保子 新治里山「わ」を広げる会事務局長
- 石 暁宇 中国農業大学 PD

1 令和6年度の活動内容

今年度は、以下の活動を中心に展開した：

- 1) 神奈川県里地里山保全協議会への出席及び助言
- 2) 小田原くくり農塾参与観察と聞き取り及び館山ジビエセンターとの意見交換会（
- 3) 地域課題実習「里山コミュニティデザイン」運営への助言
- 4) 公開フォーラムの企画・運営（「里山フリーランス」という生き方）
- 5) 公開研究会の企画・運営（「里山利用の国際動向と日中比較」）
- 6) 国際会議での発表（Asian Family Summit2024 での香港大学での招待講演）

2 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

- 1) 神奈川県里地里山保全協議会への出席及び助言（その他②に該当）
- 2) 小田原くくり農塾参与観察と聞き取り及び館山ジビエセンターとの意見交換会（県西エリア

- ⑤⑥に該当)
- 3) 地域課題実習「里山コミュニティデザイン」運営への助言（その他⑦に該当）
 - 4) 公開フォーラムの企画・運営（「里山フリーランス」という生き方）（県西エリア③、その他⑦に該当）
 - 5) 公開研究会の企画・運営（「里山利用の国際動向と日中比較」）（県西エリア③、その他⑦に該当）
 - 6) 国際会議での発表（Asian Family Summit2024 での香港大学での招待講演）（その他⑦に該当）

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000304.html>（機構 HP 内）

4 | 主要連携先

- 神奈川県庁
- (NPO) よこはま里山研究所
- 新治里山「わ」を広げる会
- 小田原イノシカネット
- 愛川国際交流クラブ
- YAMANA ハウス（南房総）

UNIT
12

ポピュラー文化を利用したまち・地域の2.5次元化プロジェクト

事業の総括責任者 ● 須川亜紀子 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 三浦 倫平 都市イノベーション研究院
- 辻 大和 都市イノベーション研究院
- 平野 恵子 都市イノベーション研究院
- 原 智弘 帝京大学外国語学部

1 | 令和6年度の活動内容

本プロジェクトの目的は、2019年度に始動したNULの「ポピュラー文化を活用した羽沢横国大駅・大学間通学路の2.5次元化プロジェクト」の継続プロジェクトとして、ポピュラー文化を利用し、横国大周辺羽沢地区を中心とする街の歴史を基礎とした地域の文化資源の「ものがたり」を可視化し、コンテンツ化していくことで、地域の魅力を再発見する仕組みや仕掛けを促す活動を行うことである。

2024年度に行った活動は、以下の通りである。

- ① 羽沢、保土ヶ谷、上星川地区のものがたりについて掘り起こすため、常盤台町内連合会の石川会長に、オンラインでインタビューを行った。石川氏が常盤台地区で過ごした歴史を振り返りつつ、町や風俗、自然の変化の様子、子どもの遊びの変化、家族での思い出などをうかがい、地域のものがたりの発掘をしたものを文字起こしし、オーラルヒストリー手法で分析した。
- ② 常盤台地区社会福祉協議会の田中澄子氏に、同じくオンラインでインタビューを行った。①の石川氏と世代が少しズレており、関西からの移住者という点で、①とは異なった視点で常盤台地区の印象や、ウォーキング企画による、散策と地域のコミュニティについて、お話をうかがえた。文字起こしし、オーラルヒストリー手法で分析した。

プロジェクトのホームページを更新し、2023、24年度の活動報告をアップした。また、上記2名のインタビューにおいて発掘された過去の羽沢、保土ヶ谷、上星川地区のものがたりスポットもマップに追加し、アップデートした。

2025年度も企画を継続し、今年度話し合ったことに関して具体化していく予定である。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ① プロジェクト HP にものがたりマップをアップし、過去に存在した施設、店舗、工場など、当時の人々の生活に関するコメントと共に紹介している。
- ② 実利的な提言ということとはできないかもしれないが、地域のものがたりや人々の記憶をたどり、地域への愛着やつながりを創出する仕組みや契機を作るためのものがたりマップをサンプルとしてお渡しした。
- ③ 羽沢、保土ヶ谷、上星川地区のものがたりについて昨年度行ったインタビュー調査結果と分析は、研究ノートとして『常盤台人間文化叢論 10』に発表した。リポジトリで学外者もアクセスできるようになっている。今年度のインタビュー調査結果と分析は、2025年度に掲載予定。

3 | ホームページアドレス等

<https://popular.ynu.ac.jp/>

4 | 主要連携先

- 常盤台地区社会福祉協議会
- 常盤台地区連合町内会

UNIT

13

子どもの成育環境デザイン

事業の総括責任者

- 田中 稲子 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 泉 真由子 大学院教育学研究科・教授
- 橘高 佳恵 教育学部・講師
- 種市 慎也 都市イノベーション研究院起・助教
- 松橋 圭子 東京都市大学人間科学部・准教授
- 船場ひさお 駿河台大学・教授
- 片岡 寛子 電気通信大学・特任准教授
- 野口 紗生 一社こどものための音環境デザイン／浜松学院大学・講師
- 小西 恵 一社 園 Power
- 村上 和子 一社 園 Power
- 伊藤 弓子 社会福祉法人あおい会・理事長
- 大竹みどり 杜ちゃいんど園・園長

1 | 令和6年度の活動内容

研究会を通して各分担者による保育施設や療育施設における成育環境の課題解決に向けた実践的研究や取組について情報共有するとともに、複数の施設見学を通して子どもの成育空間のあり方について論考を深めた。そのほか下記2に示す通り、学会発表やセミナー開催、成育空間に関するコンサルティングを通して社会還元に努めた。また、2025年3月3日にYNU BASE HAZAWAにて子どもの成育環境デザインセミナーを一般公開のかたちで開催し、保育施設において当ユニットで行った吸音対策の事例紹介や吸音材設置の効果を体験できるワークショップを行い、音環境計画の必要性について情報発信した。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒

- ① 調査協力施設 3 件に対する建築環境の実態と改善策をまとめた簡易レポートの提供と説明
- ③ 一社ADCとの共催で第 2 回子どもの成育環境デザインセミナーを開催 (2024.3.3)
- ⑤ 療育施設の衛生環境問題に対するコンサルティング 1 件、保育施設の音環境および空気環境に関する実測 1 件、アンケート調査 (155 件の回答) の実施。
- ⑦ 関係学会公表 5 件

<学会公表資料>

- 1) 松橋圭子, 種市慎也, 田中稲子: コロナ禍の園長の意識から見た都心部の保育施設の課題: 換気を中心としたヒアリング調査の考察, 日本健康開発雑誌, 早期公開 (<https://doi.org/10.32279/jjhr.202546G06>), 2025.2 (査読有り)
- 2) 松橋圭子, 高橋風葉, 田中稲子, 大西達也: アンケート調査に基づく保育者を取り巻く音環境とストレスに関する研究, 日本健康開発雑誌, 早期公開 (<https://doi.org/10.32279/jjhr.202546G01>), 2024.7 (査読有り)
- 3) 胡怡賢, 種市慎也, 田中稲子, 大西達也: 大きな声量を伴う活動を想定した COVID-19 の感染確率に関する研究, 臨床環境医学, Vol.33, No.1, pp.1-12, 2024 (査読有り)
- 4) Hu Yixian, Taneichi Shinya, Tanaka Ineko, Onishi Tatsuya: Study on the infection probability of COVID-19 in in-building nursery facilities of different facility sizes in Japan, Proceedings of 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, A-9-4, pp.1-6, 2024 (ISAIA 2024 Academic Oral Session Award)
- 5) 額田菜摘, 胡怡賢, 大西達也, 田中稲子, 種市慎也: 夏季・中間季の都市部の保育施設における 5 歳児の活動空間と身体活動量に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 2024.8

3 | ホームページアドレス等

- 地域連携推進機構 HP 内: <https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000128.html>

4 | 主要連携先

なし

UNIT
14

新音響文化研究会

事業の総括責任者 ● 中川 克志 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 樽沼 範久 都市イノベーション研究院
- 瀬藤 康嗣 フェリス女学院大学
- 城 一裕 九州大学
- 西原 尚 アーティスト

1 | 令和6年度の活動内容

2024年度の活動内容は以下の通り

- ・横浜国立大学構内において、サウンドウォーク作品(録音物を聴取しながら野音を散歩する作品)を学生とともに制作。
- ・アーティストの西原尚さんを招き、サウンド演習を実施。学生に音響彫刻や創作楽器を制作してもらった。
- ・並行して、Nick Luscombe や岩崎左和らと来年度に向けた打ち合わせ。学内あるいは学外で、フィールド・レコーディングあるいはサウンド・ウォークのワークショップを開催予定(その際、本学における宮脇方式で作られた宮脇の森と、羽沢横浜国大駅あるいは和田町駅までの経路に焦点を当てる予定)。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>						
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>						
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>						
県西エリア	<input type="checkbox"/>						
その他	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

その他⑦：横浜国立大学構内において活動を展開しています。近年中に、宮脇方式で植樹された本学の森を主題とする展示会を、野音あたりで開催することを目標としています。また、羽沢横浜国大駅あるいは和田町駅までの経路を用いたサウンドウォークの開発を目指しています。

これらの活動成果をウェブサイトで公開する準備をしています。ここ数年放擲していたのですが、本年度末までに整理する予定です。

3 | ホームページアドレス等

<https://sites.google.com/view/soundstudies/>

4 | 主要連携先

なし

UNIT
15

横浜都心における「イノベーション ネイバーフッド（創造界隈）」の形成

事業の総括責任者 ● 野原 卓 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 矢吹 剣一 都市イノベーション研究院
- 大野 敏 都市イノベーション研究院
- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 三浦 倫平 都市イノベーション研究院
- 小泉 瑛一 本学非常勤教員・about your city 代表
- 岩井 桃子 本学非常勤教員
- 秋元 康幸 本学客員教授 /NPO 法人 BankART1929 副代表
- 永田賢一郎 本学非常勤教員・YONG architecture studio 代表
- 成田 公誠 横浜市臨都心活性化推進部担当部長

1 | 令和6年度の活動内容

YNU アーバニストスクールプログラム 2024（都市イノベーション研究院公開講座）と連動しながら、横浜市都心臨海部（セントラル関内地区）を中心に、地域における実践活動を企画立案しながら、実証実験も併せて行うとともに、横浜市と連携しながら、既成市街地において、地域の個性を継承しつつ、小規模な起業やスタートアップ、クリエイティブな動きが生まれる界隈（イノベーションネイバーフッド）の創出のための調査検討を行う。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ③ 研究成果の地域への情報発信：参加自由の公開レクチャーシリーズを開催し（8/30 および 9/6 の2回）、研究成果の一部を社会へ広く公開した。また、11/3の実証実験およびスクールの中間発表会、パネル展示を関内桜通りで実施することで、一般の方も研究内容に触れる

機会を創出した。さらに、YNUアーバニストスクールプログラムのウェブサイトを活用し、スクールの内容を広く社会へ発信した。

- ⑤ 地域実践活動：将来的な活動拠点の形成に向けて、YNUアーバニストスクールプログラムの実施期間（10月～12月）のみ、対象エリアである関内駅前に拠点を設け、スクール受講生の活動の場とした。また、その拠点を活用し、各組織（行政や地域団体）との連携等を図った。
- ⑥ 地域ネットワークの構築：11/3の実証実験を地域イベント（かんないテラス）と連携して実施することで、地域団体（関内桜通り振興会ほか）とのネットワークの構築・連携を行った。

3 | ホームページアドレス等

<https://ynu-urbanist-school.jp/>

4 | 主要連携先

- 横浜市都市整備局都市デザイン室
- 横浜市都市整備局臨海部活性化推進課
- 関内まちづくり振興会
- 関内桜通り振興会

UNIT
16

常盤台まちづくり応援団

事業の総括責任者 ● 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者 ● 大原 一興 学長特任補佐
● (学外) 古城 高之 常盤台地域ケアプラザ所長
● (学外) 石川 源七 常盤台連合町内会長

1 | 令和6年度の活動内容

2008年から始めたワークショップは、今年2月で64回目となった。令和6年度は公式なワークショップを5回開催した。R6年8月には常盤台地域において、11月には羽沢地域において、それぞれ地域の居場所づくりや居場所発掘を目的とした新しいイベントを実施した。このイベントはR7年度以降も継続予定である。また、羽沢から常盤台にかけての地域で、このワークショップを契機に構成された住民組織である「羽沢横浜国大まちづくり協議会」と一体となって、まちづくりプラン作り（令和7年度策定を目指して）に参加している。まちづくり協議会は月に1回定例会を開催し、これには積極的に参画しており、まちづくりのための様々な実態調査と課題抽出、提案をおこなってきている。R7年度のまちづくりプラン正式策定（予定）に先行して、プランで計画されている「ウェルカムパック」をR6年7月から入居が始まったタワーマンション（リビオタワー）入居者向けに作成配布した。従来進めてきたまちのサイン版整備も具体化を進めている。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

② まちづくり協議会において、まちづくりプラン策定に向けて継続的に横浜市、保土ヶ谷区、神奈川区との協議をすすめている。

- ③ 羽沢横国まちづくり協議会の広報「地域まちづくりニュース」を作成し、全戸配布している。
- ④ 協議会とは別に、ワークショップを5回、常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウスで開催した。
- ⑥ まちづくり協議会とは一体的に活動（毎月の例会＋打合せ）、広報部会、サイン部会、ワークショップ部会それぞれに担当を決めて活動している。
- ⑦ 建築学科3年生の演習課題で、ワークショップと連動して西門周辺の課題抽出と、居場所化を目指した提案を行い、その成果を羽沢小学校5・6年の活動成果とあわせてコラボ展（R7年2月17日～28日@ YNU BASE HAZAWA）にて展示予定である。FM 横浜の取材も入る予定。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 常盤台連合町内会、羽沢（南部、第一、星ヶ丘）町会
- 常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス、常盤台小
- 上星川小
- 羽沢小
- 保土ヶ谷中
- 横浜市
- 保土ヶ谷区
- 神奈川区

UNIT
17

プラネタリー・ヘルスユニット

事業の総括責任者

- 藤掛 洋子 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 勝地 弘 都市イノベーション研究院
- 比嘉 紘士 都市イノベーション研究院
- 小宮 正安 都市イノベーション研究院
- 長谷川秀樹 都市イノベーション研究院
- 平野 恵子 都市イノベーション研究院
- 安部 遼祐 都市イノベーション研究院
- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 石川 正弘 環境情報研究院
- 堀内かおる 教育学部学校教員養成課程家政教育
- 杉山久仁子 教育学部学校教員養成課程家政教育
- 池島 祥文 国際社会科学研究院
- 佐土原 聡 横浜国立大学名誉教授
- 橋口奈奈穂 都市イノベーション研究院

1 | 令和6年度の活動内容

令和6年度の活動は、羽沢エリアと南米パラグアイ他で行った。

羽沢エリア・神奈川県宮巻山団地（*）：地域課題実習やNPO、民間企業、神奈川県、横浜市保土ヶ谷社会福祉協議会他と連携し、子どもの居場所：えんぴつルームにおいてフードロスへの取り組みを通じた食支援活動を行った。また、地域にある資源（落ち葉、リサイクル資材など）を活用したコミュニティとの共生の在り方を再考することを通し、地球環境と人間の健康のための活動に取り組んできた。県宮巻山団地での取り組み成果を2024年度都市科学シンポジウム他において「プラネタリー・ヘルスの観点から子どもの居場所を考える」と題して報告した。

南米パラグアイ：横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力プロジェクト：パラグアイ共和国複合的農村開発プロジェクト～アグリツーリズムの展開に向けて～」は本ユニットとの親和性が極めて高いことから、連携して取り組みを行った。本学真鍋誠司教授、田名部元成教授、アスンシオン国立大学、カアグアス国立大学、NihonGakko 大学の教授陣に加え、プロジェクトの受益者女性も証言者として国際開発学会第35回大会・人間の安全保障学会第14回年次大会『企画セッション：パラグアイ農村女性生活改善プロジェクトの学びを活かしたアグリツーリズムの展開にむけて：プラネタリー・ヘルスの観点から』において報告した（**）。

パネル展示の実施：YNU BASE HAZAWA において11月、パラグアイで展開しているアグリツーリズムプロジェクトのパネル展示を行った。都市科学シンポジウム第二部において都市社会共生学科2年生がえんぴつルームの活動をパネル報告した。

論文：都市イノベーション学府学生、先進実践学環学生、都市科学部生がそれぞれ本ユニットの研究テーマの中で修士論文、学士論文を執筆した（***）。

*対象となる笹山団地は、築57年目の県営団地であり、高齢化、外国につながる方々との共生の困難さなどの問題がある。2020年度よりこの団地の一室で子どもの居場所活動を開始し、今日では地域に活動が認知されるとともに、外国につながる子どもたちの参加も増加してきた。

【** 刊行物・学会等報告】

藤掛洋子 (2024) 「世界の貧困問題とプラネタリー・ヘルス：貧困・隠れた飢餓の脱却と自然との共生へ」、『地理月報』、No.574、二宮書店、pp.14-17。

藤掛洋子 (2024) 『企画セッション：パラグアイ農村女性生活改善プロジェクトの学びを活かしたアグリツーリズムの展開にむけて：プラネタリー・ヘルスの観点から』、国際開発学会第35回大会・人間の安全保障学会第14回年次大会（於：法政大学、2024年11月9日）他3本の共同報告を真鍋誠司教授、田名部元成教授他と実施。

カバジェロ・ドミンゲス・ウーゴ・ミゲル、藤掛洋子 (2024) 「パラグアイ農村部におけるアグリツーリズムプロジェクトの持続可能性に関する一考察：パラグアイの大学と地方行政との連携の可能性」、藤掛洋子『企画セッション：パラグアイ農村女性生活改善プロジェクトの学びを活かしたアグリツーリズムの展開にむけて：プラネタリー・ヘルスの観点から』、国際開発学会第35回大会・人間の安全保障学会第14回年次大会（於：法政大学、2024年11月9日）。

藤掛洋子 (2024) 「プラネタリー・ヘルスの観点から考える子どもの居場所」、『第8回都市科学シンポジウム：プラネタリーヘルスとまちづくり』、横浜国立大学（2024年12月14日、於：横浜国立大学）

【*** 学生の研究論文】

鳥越温生 (2025) 『パラグアイ共和国における魚食文化の受容－1980年代以降のティラピア養殖を事例として－』、横浜国立大学都市イノベーション学府修士論文。

* プラネタリー・ヘルスの観点からの考察も行われた。

江藤克 (2025) 『パラグアイ共和国農村部におけるバイオトイレの利用とその受容にかかる研究』、横浜国立大学先進実践学環修士論文。

* 地球環境との共生のための取り組みについてバイオトイレを活用し、実証実験を行った。

本藤理子 (2024) 『ニューカマーの子どもたちの言語・宗教教育の課題－横浜市に住むニューカマーの保護者たちのライフストーリー分析から－』、横浜国立大学都市科学部卒業論文。

* 県営団地における多文化共生の取り組みについて論じた。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

3 | ホームページアドレス等

- facebook 笹山えんぴつルーム 【横浜国立大学×ミタイ基金】

- 地域課題実習動画

<https://www.youtube.com/watch?v=DLyJieXKZFc>

- 横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力事業：パラグアイ共和国複合的農村開発プロジェクト～アグリツーリズムの展開に向けて～

<https://paraguay-mujer.com/>

4 | 主要連携先

- 神奈川県県土整備局建築住宅部

- 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会

- 笹山自治会

- 笹山地区社会協議会

- (株) ジャンボリア

- NPO 法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金他

- 横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力事業「パラグアイ共和国複合的農村開発：アグリツーリズムの展開に向けて」プロジェクト

UNIT
18

羽沢横浜国大駅周辺地域の交通計画

事業の総括責任者 ● 安部 遼祐 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力 ● 田中 伸治 都市イノベーション研究院
● 松行美帆子 都市イノベーション研究院
● 五十嵐達哉 建設技術研究所東京本社交通システム部

1 | 令和6年度の活動内容

本ユニットでは、横浜国立大学キャンパスを含む羽沢横浜国大駅周辺の地域交通に関する調査研究を行っている。

令和6年度は、羽沢横浜国大駅～横浜国立大学間および羽沢横浜国大駅周辺を対象にしたオンデマンド交通の導入可能性に関する分析（研究成果は下記参照）、導入に向けた課題の整理を行った。

併せて、令和6年度は、横浜市におけるバスの減便が住民の活動・モビリティに与える影響、端末交通の利便性向上が横浜国立大学への通勤行動および自動車走行距離・CO2排出量に与える影響に関する分析を行った。

2 | 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ② 研究成果の地元自治体への情報提供
- ③ YNU HAZAWA BASE（羽沢サテライト施設）開設イベント（2024年10月）、第8回都市科学シンポジウム（2024年12月）において、研究成果の地域や関係者への情報発信
- ⑦ 研究成果の学会発表
 - ・白岩元彦・安部遼祐（2024）“端末交通手段としてのオンデマンド交通の文脈効果に着目し

- た需要特性に関する研究”，第69回土木計画学研究発表会・講演集，北海道大学，2024年5月。[優秀ポスター賞]
- ・権頭望夢・安部遼祐（2024）“ウェアラブル端末を用いた路面上を走行する公共交通乗車時のストレス評価”，第69回土木計画学研究発表会・講演集，北海道大学，2024年5月。

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000312.html>

4 | 主要連携先

- 横浜市都市整備局・神奈川区
- 相鉄ホールディングス株式会社

UNIT
19

みなとみらい21 地区における脱炭素まちづくり

事業の総括責任者

- 吉田 聡 都市イノベーション研究院准教授

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 稲垣 景子 都市イノベーション研究院准教授
- 田中 稲子 都市イノベーション研究院教授
- 佐土原 聡 横浜国立大学名誉教授
都市環境エネルギー協会・専務理事
- 佐藤 茂 みなとみらい21熱供給(株)
- 西田 晃 みなとみらい21熱供給(株)
- 後藤 吉博 みなとみらい21熱供給(株)

1 令和6年度の活動内容

令和6年度は、みなとみらい21(株)とみなとみらい21地区の脱炭素化に向けた課題や適応技術等について、意見交換の場を3回(5月、11月、3月(予定))もち、地球温暖化(暑熱化)による地域冷暖房システムへの影響についての研究を実施し、冷却水出口温度の上昇による熱製造効率の低下を確認した。

また、都市イノベーション学府講義「グリーンビルディング・コミュニティ計画論」と連携して、みなとみらい21地区の地域熱供給プラント見学会(参加学生数50名)を開催した。

2 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ① 暑熱化による地域冷暖房システムへの影響を評価した。
- ③ 研究成果として冷却水出口温度上昇への対応策を提言した。
- ⑦ 学生を対象に「みなとみらい21地区における脱炭素の取組み」に関する講義、および「みなとみらい21地区地域冷暖房プラント」見学会を行った。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- みなとみらい21 熱供給株式会社

UNIT
20

イノベーション創出を目指す学生の 地域連携活動のプラットフォーム

事業の総括責任者

- 為近 恵美 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 木内 恵子 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター
- 湯沢 雅人 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター
- 小清水 実 先端科学高等研究院
- 前田俊太郎 TOPPAN デジタル (株)

1 | 令和6年度の活動内容

学生によるイノベーションの創出を目指し、学生を主体とする活動基盤「イノベーションプラットフォーム(略称:i-Plat)」を提供、その運営および学生の活動に対する支援を行った。その根底には、地域や社会の課題を発見し、解決したいという思い、そして解決策の模索と具現化を押し進める体制が必要との考えがある。また、活動全体の集約と地域との意見交換の場として、かながわ起業家教育推進協議会に参加している。

今年度も学生は従来の i-Plat における活動と同様、テーマ毎にチームを結成し、それぞれ下記の活動に取り組んだ。加えて、各チーム間の協力によるイベントや、企業との新たな意見交換の場も生まれた。

● VR データ設計技術による価値の創出

学部・学府をまたがる学部生・大学院生による連携を主体として、理工系・都市科学系メンバーが各々持ち寄る技術シーズを活かした YNU-VR マップの作成を継続、その利用シーンを探りながら VR データ設計技術による価値の創出を模索し、かつ、VR データの表示方法として、今年度新たに空間再現ディスプレイ (SRD : Spatial Reality Display) 適用にトライした。

【活動内容】

- ・ VR マップでの SRD の活用につき、SRD の開発と適用先の開拓に取り組むソニー技術者と意見交換 (@ソニーシティみなとみらい)
- ・ ソニー技術者による SRD のデモンストレーションと意見交換 (@横浜国立大学)
VR を用いたクレーン運転シミュレータの事業化 (NEDO 事業採択) に取り組んでいる大学院生も参加したが、SRD の活用を検討したいとの意向を示し、適用先の候補が広がった
- ・ SRD 上での YNU-VR マップの表示に向け、現在機能開発中

● 3D プリンタを活用した立体模型の製作

大学院生と協力して、3D プリンタの教育への活用方法を模索した。

具体的には、古生物学を専門とするメンバーが、気軽に触れる化石の立体模型の製作に取り組んだ。また、自身の研究において、アンモナイトの殻の中に潜んでいた生物を立体視することを念頭に置きながら、前項の SRD の利活用を検討した。

【活動内容】

- ・ 3D プリンタのテストと化石模型製作の試行
- ・ 古生物学の研究における SRD の利活用の検討

●日本の科学力の強化に向けた子供たちの学び&体験の場の創出 (CurioSeeds)

「好奇心の種をまく」ことを目的とし、自然の奥深さや生命の尊さを学ぶフィールドワーク、身近に存在する疑問やワクワクするようなテーマでの面白実験など、理科や科学に対する興味を喚起する活動を通して、小中高生が探求心を持つきっかけづくりに取り組んだ。

【活動内容】

- ・ 中高生に対する進路選択の契機を提供 (日本の未来を支える科学者集まれ! @ YOXO-BOX) (上述の VR チームがコンテンツを用いて中高生に体験の場を提供)
- ・ 実験の体験を通して探究心を持つ契機を提供 (ハカセ女子と一緒に科学を学ぼう! @湘南アイパークフェスタ 2024)
- ・ 身近な身体の不思議を知ることを通して科学への興味を喚起 (ミトコンドリアの浪漫と大逆襲@ YOXO-BOX)
- ・ スライムづくりによる夏休みの自由研究プロジェクトの開催 (リコチャレ@横浜国立大学)
- ・ スライムづくりを通して理科の楽しさを体感する場の提供 (@こどもサポート南野川)
- ・ 博士課程の不安や悩みに対する相談会を開催 (ランチ会@ YOXO-BOX)

2 | 令和 6 年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 | ホームページアドレス等

- YNU-VR プロジェクト : <https://vrynu.com/>
- CurioSeeds : <https://www.ynu.ac.jp/hus/engk3/31849/detail.html>
- 子どもミライ教室 : https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x2t/kouza_event/kodomomirai2024.html

4 | 主要連携先

- ディアベリー株式会社：<https://deervery.com/>
- 株式会社ぐるり：<https://gururi-lp.com/>
- 横浜未来機構：<https://yoxo-o.jp/>
- 神奈川県（起業家教育）：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/sr4/kigyouka.html>
- かなテラス <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x2t/top.html>

UNIT
21

かながわ県西 森里川海 みらいプロジェクト

事業の総括責任者

- 森田 洋 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター
2024年12月30日に逝去されました。ご生前のご功績を偲び、心より哀悼の意を表します。

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 下出 信次 環境情報研究院（臨海環境センター）
- 池島 祥文 国際社会科学研究院
- 水井 涼太 NPO 法人ディスカバーブルー

1 令和6年度の活動内容

昨年度同様に、真鶴にある本学臨海環境センターや地域の事業者とともに海洋生物の多様性が高い相模湾における未利用資源の探索を継続的に検討した。小田原市水産海浜課担当者へのヒアリング調査の結果、意外にも、小田原付近では、未利用魚は多く発生していない点を確認された。しかし、それは、商品価値が低く市場流通しにくい魚種であっても、積極的に流通を進める地元スーパーや商品開発化を進める地元漁協の取組みがあつてこそ未利用魚が少ないという点が明らかとなった。

そうした地域特性を踏まえ、真鶴付近の水産資源流通を確認するとともに、臨海環境センターにおいて、地元の水産資源の活用方法について実験を進めた。

2 令和6年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
新湘南エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
羽沢エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
県西エリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

3 ホームページアドレス等

- 臨海環境センター HP：<http://www.mmcer.ynu.ac.jp/mmcer/top.html>

4 主要連携先

なし



YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University
地域連携推進機構

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
TEL: 045-339-4455 FAX: 045-339-3057

WWW.chiiki.ynu.ac.jp